慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	女性の軍使
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1953
Jtitle	史学 Vol.26, No.3/4 (1953. 6) ,p.157(303)- 157(303)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19530600-0157

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

氏朝鮮に至る六章に於いて朝鮮史の流れが脈絡一貫して述べてある。何れの章も極めて簡單に要領よく、重要事項は殆ど洩れなく載せてあり、而も大家の圓熟せる手に成つた好讀物で、眞に一讀して卷を置く能はずといふ趣がある。しかし本書の特色として第一に擧ぐべきは政治史よりも寧ろ文化史を中心に說いてゐることであつて、石器文化を始め、樂浪の文化や高麗の佛教文化、青磁等々の朝鮮の古文化遺物についての正確な知識が容易に得られるのである。なほ各時代の社會制度などについても多くの記述がなされ、例へば新羅の滅亡とともに以前の嚴格な階級制度は崩れ、高麗になると、王を首め功臣も皆、氏も無い庶民であつたことなどが特に興味深く語られてゐる。更に本書が全體を朝鮮民族の歷史でなく、朝鮮半島の歷史として採り上げてゐる點や、總督政治に對しても妥當な評價を與へてをることなどは著者の史家としての見識を示すものと見ることが出來よう。

なほ望蜀の言を述べさせて頂くならば、李朝や日本統治時代などの近世史にもつと多くの頁を割いて欲しかつたやうに思ふ。また匆卒の筆の滑りや誤植のやうなものも若干見受けられるが、それらは皆、いはゆる白璧の微瑕であつて、本書の眞價は聊も搖がないこと勿論である。東洋學が世間からあまり顧みられぬ今日、かゝる一般向の讀み易い良著が續々として刊行されることを希望して已まない。

（和田博德）

女性の軍使

內戰外戰をとわず開城し敵の軍門に降る時に軍使を送つた例は古今に多々あるが、女性の軍使と云うべきは稀である。戊辰役東奥戰で福島縣湯長谷（ユナガヤ）の攻略に際し城主の母親が降服の使として單身で官軍參謀の營地に赴いている。女性なれば途中の危害なく無事目的地に達するものと考えた爲であらう九州柳河藩士で同戰に活躍した伊藤貞承が陣中矢立の筆で記した横綴の小帳面二册を令孫東一郎君の厚意で一讀したが、所謂官軍の進擊と奥州諸藩の抗戰狀況が手に取るように窺われ、其の中に、

（六月）一同廿九日早天ニ濱手通薩州備州大村より湯長谷數進行、山手ニ佐土原柳河苦也、然處參謀より使番參平潟表ニ賊舟三艘參候ニ付柳河引揚可有之旨達相出、直平潟表引返と相成、山手者佐土原一手也、追々進行最早湯長谷近邊と相成、二手より大炮小炮打懸新手入替〳〵攻登り、賊茂兼而用意之事成共品替大ニ防たり、雖然官軍いきも不繼入替〳〵戰烈數事なれ共、敵益逃足相成味方者益進加なし、以外晝九ツ頃落城相成候處、城中より壹人駈來候者有之參謀之方參る、女ニ者有之候得共降參相願ニ付、賊者岩城平駈込けり、此女內藤長壽丸公母なり承る。（原文のまゝ）

（武田勝藏）